

# TOREK 自然農法 ホットニュース

第 264 号 2020. 4. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

## ひよこは育つ！長柄山自然農園

山本由希彦

コロナウイルスの影響で、非常事態宣言が出され、ほとんどの店は閉められ、道路は閑散として、人影がまばらとなっています。映画で『感染列島』というのがありますが、それが現実になっているようです。毎年秋から冬にかけて、鳥インフルエンザにより、たくさんの鶏が全国で土に埋められてきましたが、このような事態になるとは、養鶏家として大変複雑な思いです。そんな中、この文章を書いています。



それでも当農園では、春になるにつれて、鶏たちの産卵量が増えてきました。1月と2月に入れた「ひよこ」たちも元気に育っています。鶏の種類は、日本で作り出された「星野ブラック」という品種なのですが、生涯を通してこの品種を作り出した社長が、今年の1月でお亡くなりになられました。そこで、今年からは特に大事に育てていこうと考えています。そして新しい社長に、「これまでと同じようにワクチンを一切やらずに、ひよこを出荷していただきたい」とお願いしたところ、「獣医に相談してから」とのことでしたので、心配していました。すると、会社としては一切の責任を持ちません、という文章を保証書に付け加えるということで了解していただきました。大変有り難かったです。

野菜に関しましては、今年こそという気持ちで、ビニールハウスに、ナスやピーマンなど夏野菜の苗をたくさん作っています。種に関しては、市販のもの、少ない肥料で作られた無農薬野菜から取れた種を購入し、両方蒔きました。両方の生育の違いを観察していきたいと考えています。苗土は昨年の台風のときの土砂崩れの土が家の周りにたくさんあるので、それを使いました。水はけがわりと良く、生育も良いように感じられました。



このようなご時世だからこそ、気楽に楽しくやっていければと考えています。元々ずっと以前より在宅ワークでしたので、そして人と人の距離もずっと離れているというよりか、人がいませんので、農園にいる限りマスクの必要など全くありません。

最後に皆様のご協力に関しましては、本当に心から感謝しています。

## ミラクル・ライスを広めよう！

東京都 茂呂 彰

きっかけは、フィリピンでの教育ボランティアでした。2019年9月にセブ島北部のボゴ・シティに出向き、2週間のホームステイをしながらサンレミジオ・C・スクールの生徒たちを指導しました。

出発前、ガイドブックで、フィリピーノは米を主食としていることを知り、絶好の機会と、自然米（無施肥無農薬栽培米）を持って行きました。ホスト・ファミリーとの対面時には、お土産の一つとして、自然米を「ミラクル・ライス（奇跡の米）」と紹介し、病床に伏せて食事のとれなかった人も、このお米だけは口の中に入り、命を救われたのだと説明しました。その話は、アナリン（奥さん）の頭の中に残ったようでした。



ホスト・ファミリー宅

彼等は、ご飯・肉・魚・卵焼き・野菜等をめいめい皿にとり、手づかみで食べます。私の持っていった自然米はお寿司に姿を変え、家族7人＋私に振る舞われました。真にこの夕食は、誰もが至福の味を楽しんだ一時になりました。

また、アナリンはお米だけでなく、一緒に持っていった、ふりかけにも大変興味を示しました。彼女は日本に帰ったら、ふりかけを送ってほしいと望み、私は自然米とセットでふりかけとお菓子を3～4カ月のスパンで送っています。たまに南の空から、「サンキュー、アキラ！」という「音なき声」が聞こえてくる感じがします。

そして、この令和2年。私はさらに自然米を広めるべく、下記の活動を始めました。

1. 子ども食堂の食材に提供する。
2. 旅で知り合った方に「奇跡の米」を紹介する。（活動自粛が明けましたら再開いたします）

1は江戸川の子ども食堂のシェフに、2は川口市母子保健センター休日管理人に各々提供し、自然米の存在を知ってもらいました。今後も継続して取り組んでまいります。

## 埼玉の自然農法活動

入間グループ農園では、4月5日にジャガイモの植え付けと、キャベツなどの苗植え、そしてインゲンの種まきをしました。3月中は雨が多く、ジャガイモ植えはかなり遅くなってしまいましたが、畑ではイチゴやブルーベリーの花が咲き始め、春真っ盛りです。キヌサヤも元気に大きくなっています。11月に種を販売する予定のインゲンも芽を出し始めました。

活動自粛の中ですが、そんなときだからこそ、思う存分自然農法活動ができています。これほど安全な場所はないと、来るたびに思います。

三六九会農園（入間市）では、近くで工事が始まるため、3月15日に茶の木を5畝ほど移植し、畑が少しせまくなりました。お茶以外の作物はあまり作れなくなっていますが、小屋の裏でにんにく、長ネギ、菊芋を栽培する予定です。お茶の木も2～3ミリほど芽が出始めました。今年もしっかりお茶摘みができるよう草取りをがんばっています。



入間グループ農園



弥生会 第一農園

4月8日、狭山市の弥生会農園では、数人の青年が作業を行いました。3月から思うように農園に行けない状況ですので、喜びもひとしおでした。

この日、自然農法39年目の第一農園にショウガを植え、26年目の第二農園では、小松菜や二十日大根の種まき、ねぎの土寄せ、サツマイモの畝切りなど行いました。特にショウガは、昨年秋の農産展で、ジンジャーエールにして販売し、好評を得ましたので、活動自粛の現状ではありますが、希望をもって準備していきたいと思っています。（編集部）

## お知らせ（変更の可能性あります）

★ 自然農法頒布会 5月15日（金） 鎌ヶ谷会場 11:00～15:00（売切れ次第終了）

お問い合わせ先：編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: [naturefarming@torek.jp](mailto:naturefarming@torek.jp)  
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>